

# 音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

## 【準備】

- ・柱は六、七弦のみに立て、六＝ソ、七＝ラに調弦しておく。
- ・爪有り（親指のみ）
- ・2人で1面

## 1. 指導内容

〔共通事項〕音色（箏の基本的な奏法「しっかり弾き」と音色）と曲想

〔指導事項〕(2) 器楽 ア、イ(イ)、ウ(イ)

2. 単元名 : 箏の基本的な奏法「しっかり弾き」の音色を意識して《だるまさんがころんだ》を弾こう

3. 対象学年 : 小学校第3学年

4. 教材 : 《だるまさんがころんだ》わらべうた

## 5. 教材について

### 【音楽の背景】

《だるまさんがころんだ》は鬼遊びで歌われる遊びうたである。10拍を数える代わりに10文字の文章を唱えることが行われ、《だるまさんがころんだ》という文章が選ばれたとされている。「だるま」はインドから中国へ仏教を伝えた達磨大師がモデルになっている。達磨大師には、壁に向かって座禅を続けて手足が腐ってしまったという伝説がある。今日のような「だるま」が生まれたのは江戸時代で、この達磨の座禅姿を、倒れても起き上がってくる起き上がり小法師に写し、不撓不屈の思いを込めたものとされている。

### 【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

親指につけた爪で、絃の手前から次の絃に向けて押しつけるように弾くのが、箏の基本的な奏法である。この基本的奏法について、本指導案上では「しっかり弾き」と呼んでいるが、「〇〇弾き」のように子どもに命名させてもよい。親指につけた爪で絃を上向きに弾くように弾く「ひっかけ弾き」と比較聴取させることで、「しっかり弾き」によるはっきりとした力強い音色を知覚・感受させよう。例えば、「しっかり弾き」の音色から生じたイメージを意識して《だるまさんがころんだ》を演奏する技能を身に付けさせたい。

## 6. 指導計画 : (全3時)


ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	爪のつけ方と基本的な奏法である「しっかり弾き」の弾き方を知る。 ペアで交代しながら、爪をつけて《だるまさんがころんだ》を弾く。	1
分 析	「しっかり弾き」と「ひっかけ弾き」の音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	2
再経験	「しっかり弾き」の音色を意識して、《だるまさんがころんだ》の表現を工夫する。	3
評 価	リレー奏で発表する。 「しっかり弾き」の音色についてのアセスメントシートを記入する。	

## 7. 単元目標・評価規準

評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	「しっかり弾き」の音色について理解し、イメージが伝わるように《だるまさんがころんだ》を弾く。	★①「しっかり弾き」の音色を意識し、そこから生じるだるまのイメージが伝わるように《だるまさんがころんだ》を弾いている。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・判断・表現	「しっかり弾き」の音色について知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 「しっかり弾き」の音色を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①「しっかり弾き」の音色を知覚・感受している。 ★②「しっかり弾き」の奏法と音色を意識し、自分がイメージした達磨の様子が伝わるように表現を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	「しっかり弾き」の音色に関心を持ち、意欲的に《だるまさんがころんだ》を弾く。	①箏の奏法と音色に関心をもって意欲的に「しっかり弾き」で箏を弾いている。 ★②「しっかり弾き」の音色に関心をもって意欲的に《だるまさんがころんだ》を弾いている。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

## 8. 展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経験	爪のつけ方と基本的な奏法「しっかり弾き」の弾き方を知る。 ペアで交代しながら、爪をつけて《だるまさんがころんだ》を弾く。		
<p>■《だるまさんがころんだ》を探り弾きさせる。</p> 	<p>1. ペアで《だるまさんがころんだ》が箏で弾けるように歌いながら音を探す。</p> <p>T: (だるまの写真を掲示) こんな見たことありますか? C: だるま。 C: 選挙の時テレビの後ろで映ってた。 C: だるまさんがころんだ。 T: だるまさんがころんだって言ってくれましたね。みんな、遊んだことありますか? C: あるある！♪だ～るまさんが～ころんだ T: もう 1 回みんなで歌ってみましょう。 T: みんなはそんな歌で遊んでいるけれど、もともとは達磨大師という偉いお坊さんがモデルになっています (達磨大師の絵を掲示)。</p>	<p>●達磨の写真を見せ、知っていることを発言させる。</p> <p>●「だるまさんがころんだ」という子どものつぶやきを拾って、全員で歌わせる。</p> <p>●だるまの文化的背景について知らせる。</p> <p>●「今日は《だるまさんがころんだ》をお箏で弾きます。」と言って、六＝ソ、七＝ラに調弦した箏を配る。</p> <p>●爪、琴柱、絃の名称等、箏の基本情報について図を掲示して確認させる。</p> <p>●「お箏の楽譜は、こんな風に縦に書かれています。歌は七から始まりまるので、「だ」は七ですね」と言って、掲示した縦譜に七のカードを貼る。</p> <p>●「では、みなさんで続き</p>	

■爪の付け方と箏の基本的な奏法を大まかにとらえさせる。



2. 爪を付けて「しっかり弾き」で七の弦を弾く。

T: これまでは指で弾いてきましたが、お箏は爪をつけて弾きます。みんなも爪をつけて弾いてみましょう。



■爪をつけた状態で大まかに《だるまさんがころんだ》を弾けるようにさせる。

3. ペアで交代しながら、《だるまさんがころんだ》を弾く。

を探して《だるまさんがころんだ》をお箏で弾けるようにしましょう」と言ってペアで音を探させる。

●《だるまさんがころんだ》の楽譜を完成させ、歌と箏の役割を交代しながら通して演奏させる。

●親指にのみ、爪をつけるように促す。

●箏に向かって左 45 度の角度に向き、龍角の延長線上に自分の右腰がくるように座らせる（立たせる）。

●手は卵を握るような形にし、龍角から 2～3 cm の七の絃に対して爪を 45 度の角度で当て、六の絃に向かって押すように促す。

●何度か弾いたらペアで交代させる。

●手の形や弾き方を意識させるにはするが、完璧を求め過ぎないようにする。

●自分が弾かない時は、絃の番号を旋律に合わせて歌うように促す。

主体的に学習に取り組む態度①（観察）

分析

「しっかり弾き」と「ひっかけ弾き」の音色を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。

■箏の基本的な奏法の音色を知覚・感受させる。

4. (ア) と (イ) の《だるまさんがころんだ》を比較聴取し、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。



●手元にパーテーションを立てて教師が演奏する。

●子どもに目を閉じるように促し、(ア)「しっかり弾き」の《だるまさんがころんだ》と(イ)「ひっかけ弾き」(爪で絃を上ひっかけるとして弾く)の《だるまさんがころんだ》の演奏を聴かせる。

思考・判断・表現①（ワークシート）

■知覚・感受した内容を共有させる。

5. ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。

C: (ア) は、はっきりした音で元気なだるまだけど、(イ) は、ポーンって鳴って優しいだるま。

C: (ア) は達磨大師が怒ってるけど、(イ) は悲しそう。

T: (ア) と (イ) はどんな音？

C: (ア) は強いパンって音で、(イ) は弱いポンポンって音。



● (ア) (イ) に対する子どもの発言を知覚と感受に分けて板書する。

● 「みんながこれまで弾いていたのはどっちかな？」と問い、(ア) であったことや奏法によって音が変わることを取り上げ「音色」という用語を押さえる。

● 知覚したこと（音色そのものに関する発言）と感受したこと（感じやイメージに関する発言）の対応関係がわかるように板書する。

● (ア) (イ) の奏法に対して子ども達の意見を取り入れてそれぞれに「しっかり弾き」「ひっかけ弾き」というように、用語として確認する。

■ 箏の基本的な奏法を定着させ、イメージを表現するための手がかりを得させる。

6. ペアで交代しイメージを意識して「しっかり弾き」で《だるまさんがころんだ》を弾く。

T: お箏を演奏するときには、このような『しっかり弾き』をすることが基本になります。

T: では、たとえば「元気なだるま」のイメージで弾くにはどうしたらいいと思いますか？

C: 少し強く弾いたらいいと思います。

T: じゃあ、みんなで少し強く弾いてみましょう。

C: ♪ (強めに演奏)

T: 元気なだるまさんの感じが出ましたか？

C: 出た！

● 「しっかり弾き」が箏の基本の奏法になるということを伝える。

● 板書の中から「しっかり弾き」によるイメージをピックアップし、そのイメージを意識して演奏させる。

● 演奏後にどんなことを意識して演奏したかについて発表させ、その工夫についてクラスで演奏して試してみる。

再経験

「しっかり弾き」の音色と奏法を意識して、《だるまさんがころんだ》の表現を工夫する。

■ 表現の工夫への手がかりを基に、自分たちのイメージに合った表現を工夫させる。

7. 「しっかり弾き」の音色によってもったイメージが表現できるように、ペアで交代して演奏する。

● 状況を見て団扇太鼓等や箏でオスティナートを入れる。

● オスティナート用の箏は、必要な柱のみ立てたものを1面用意しておき、希望する子どもがいたら演奏させる。

★思考・判断・表現②（観察）

<p>■ 作品の交流を通してイメージを表現するための工夫に気づかせる。</p>	<p>8. 中間発表をする。</p> <p>T: では、中間発表として3班に演奏してもらいます。まずはイメージを言って、どんな工夫をしたか教えてください。伝わるかな? みんなは目を閉じて聴きましょう。</p> <p>C: 元気なだるまです。♪ (演奏する)</p> <p>T: お〜! では、聴いた感想を教えてください。</p> <p>C: なんか、元気なんだけど、だんだんイライラして巨大化してくるみたい。</p> <p>T: どうしてそう思ったの?</p> <p>C: だんだん強くなっていったから。</p> <p>T: なるほど。ただ強く弾くだけでなく、だんだん強くなっていう工夫もできるのですね。拍手!</p> <p>T: みなさん、こちらを見てください。6班はなかなかイメージが決まらなくて困っています。みんなで6班の演奏を聴いてどんなイメージかを一緒に考えてください。</p> <p>C: のんびりなだるまさん。</p> <p>T: どうしてそう思ったの?</p> <p>C: ゆっくり弾いていたから。</p> <p>T: なるほどね。6班さん、参考に見て下さいね。</p>	<p>● 工夫が顕著な班を1〜2班抽出し、イメージを発表させてから演奏させる。</p> <p>● 抽出班の発表を聴く際は、イメージを思い浮かべながら聴くように促す。</p> <p>● 工夫されていた表現に気づかせ、状況に応じて全員でやっているように促す。</p>	<p>★ 主体的に学習に取り組む態度② (観察)</p>
<p>評価</p>	<p>リレー奏で発表する。 「しっかり弾き」の音色についてのアセスメントシートを記入する。</p>		
<p>■ 作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。</p> <p>■ 箏の基本的な奏法と音色についての振り返りをさせる。</p>	<p>9. リレー奏で発表していく。</p> <p>10. アセスメントシートに記入させる。</p>	<p>● 状況に応じて、団扇太鼓や箏でオスティナートを入れる。</p> <p>● 事前に録音済みの(ア)「ひっかけ弾き」の《たこたこあがれ》と(イ)「しっかり弾き」の《たこたこあがれ》の演奏を聴かせる。</p>	<p>★ 知識・技能① (演奏)</p> <p>★ 知識・技能② (アセスメントシート)</p>

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考に行っている。

小島律子 (2015) 「プログラムⅡ-1 爪をつけて2つの音で基本奏法をする」『義務教育9年間の和楽器合奏プログラム—生成の原理の立場から—』黎明書房, pp.32-34

だ
る
ま
ぎ
が
こ
ろ
ん
だ

七	だ
七	る
七	ま
七	ぎ
七	が
七	こ
六	ろ
七	ん
七	だ
○	

実際に子どもが記入したワークシート

ワークシート  
(しかりびき) を意しきして《だるまさんがころんだ》をひこう  
3年 1組 番 班 名前 \_\_\_\_\_

	どんな音から?	だるまさんのようすやイメージ
(ア)	強くてひびいている音。	だるまさんがとんとんあしおともたてている音。
(イ)	弱くてしずかな音。	かなしそう、ひとまぶさ、しずか

ワークシート  
(しかりびき) を意しきして《だるまさんがころんだ》をひこう  
3年 5組 番 班 名前 \_\_\_\_\_

	どんな音から?	だるまさんのようすやイメージ
(ア)	強い、止まってひいてと いうくりかえし。	おこっている。
(イ)	やさしい、なめらか。	スキップをしている。

実際に子どもが記入したアセスメントシート

アセスメントシート

「しっかり<sup>び</sup>弾き」の音色を意しきしておことをひこう

3年 1組 番 名 姓 \_\_\_\_\_

■自分たちのペアでイメージしただるまのようすと、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

わたしは (楽しくおどっているよう) だるまのようすやイメージをあらわすために、  
(しっかりびきたけどやさしく) という工夫しました。

■今から2しゆのいの《たこたこあがれ》をききます。  
それぞれどちらのひき方の音色ですか、合っていると思う方に○をつけましょう。  
また、それぞれのこがどんな様子であがっているのか、イメージしたことを書きましょう。

①の《たこたこあがれ》	②の《たこたこあがれ》
ア. しっかりびきの音色 イ. ひっかけびきの音色	ア. しっかりびきの音色 イ. ひっかけびきの音色
たこの様子やイメージ ふわふわとゆくりよがっているようす。	たこの様子やイメージ 強くかぜでたこがひはられていて、ものすごくたかい所にまいる上がっているようす。

アセスメントシート

「しっかり<sup>び</sup>弾き」の音色を意しきしておことをひこう

3年 2組 番 名 姓 \_\_\_\_\_

■自分たちのペアでイメージしただるまのようすと、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

わたしは (むづい強くそう) だるまのようすやイメージをあらわすために、  
(さしよをうつついでさしこのこをた) の所をとくに強くする という工夫しました。

■今から2しゆのいの《たこたこあがれ》をききます。  
それぞれどちらのひき方の音色ですか、合っていると思う方に○をつけましょう。  
また、それぞれのこがどんな様子であがっているのか、イメージしたことを書きましょう。

①の《たこたこあがれ》	②の《たこたこあがれ》
ア. しっかりびきの音色 イ. ひっかけびきの音色	ア. しっかりびきの音色 イ. ひっかけびきの音色
たこの様子やイメージ ひく上っている。	たこの様子やイメージ 高く上っている。